

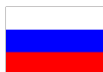
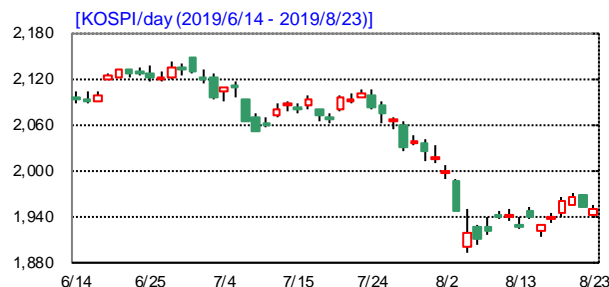


【韓国】 総合指数は 1.1%高と 5 週ぶりに反発、今週は韓国中銀基準金利が発表へ

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 1.1%高と 5 週ぶりに反発。週半ばの 21 日まで買い戻しが優勢だった。中国やドイツの景気刺激策への期待から世界的な景気後退懸念が和らいだほか、米商務省が中国の通信機器大手、華為技術（ファーウェイ）への禁輸措置を巡り、保守に関わる一部取引のみ認める例外措置を 3 カ月延長すると発表したことが好感された。21 日終値は約 3 週ぶり高値。一方、週後半は軟調に推移した。7 月の FOMC 議事要旨を受けて米国の継続的な利下げに対する期待がやや後退。23 日のパウエル FRB 議長の講演を前に様子見ムードが広がった。日韓関係の一段の悪化に対する警戒感も重荷。今週は韓国中銀が 30 日に基準金利を発表する。消費者信頼感指数、鉱工業生産、サービス部門生産指数なども発表される予定。

▼指数チャート

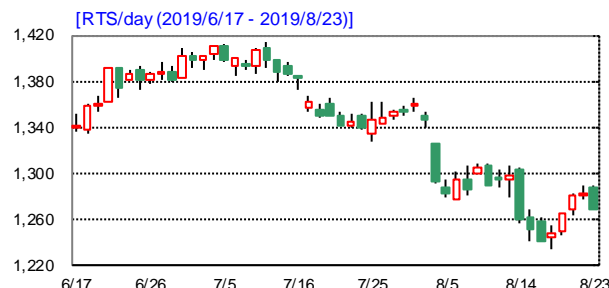


【ロシア】 RTS 指数は 2.3%高と 7 週ぶり反発、今週は通貨堅調で買いが続くか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 2.3%高と 7 週ぶりに反発。中国やドイツの景気刺激策やルーブル高などが好感された。中国人民銀行（中央銀行）が企業の金利負担軽減のための制度改革を発表し、金融緩和期待が高まったほか、ドイツが最大 500 億ユーロの景気刺激策を示唆したことが買い材料となった。指数は週初の 19 日に 4 営業日ぶりに反発すると、米追加利下げ期待の高まりやルーブル高、資源業界に対するロシア政府の税制優遇方針も支援材料となり、指数は 22 日まで 4 日続伸。23 日は米国と中国の報復関税の応酬で 5 日ぶりに反落している。個別銘柄では、ノリリスク・ニッケル、ルクオイル、ガスプロムなど資源・エネルギー株の上昇が指数を押し上げた。今週は堅調なルーブルや中国の政策期待を背景に買いが続くか。

▼指数チャート



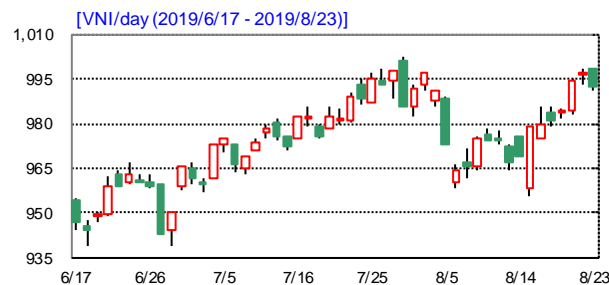
【ベトナム】 ベトナム指数は 1.3%高と続伸 今週は利益確定売りが上値抑制要因

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 1.3%高と続伸。中国やドイツなどの海外の景気刺激策を背景に買われ、約 3 週間ぶりの高値を更新した。週明け 19 日は中国人民銀行（中央銀行）の金利改革が好感され、0.1%高と小幅に上昇。その後もドイツの財政支援措置の示唆などが買いを誘い、金融・不動産株を中心に堅調に推移。指数は前週の 14 日から 22 日まで 7 営業日続伸し、8 月 1 日以来、約 3 週間ぶりの高値を更新した。23 日は利益確定売りに押されて下落したが、週間ペースで続伸した。個別銘柄では、ベトナム投資開発銀行（4.3%高）、ビンホームズ（4.2%高）、ペトロベトナム・ガス（3.1%高）、ビンググループ（2.5%高）などの上昇が指数を押し上げた。今週は景気見通し不安が後退する一方、米中関係悪化や利益確定売りが上値抑制要因か。

▼指数チャート

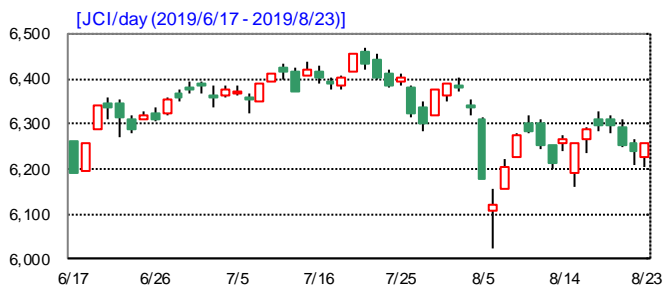


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.5%安、中央銀行が 2 会合連続の利下げを決定

ジャカルタ総合指数は週間で 0.5%安と反落。予想外の政策金利引き下げが好感され、下げ幅を縮めた。週初の 19 日は、前週末に中国人民銀行（中央銀行）が金利改革を実施し、企業の調達コスト引き下げを図る方針を示した効果で続伸。その後は買い材料に乏しくじりじりと下値を広げたが、22 日に中央銀行が定例会合で政策金利を 2 会合連続で 0.25%引き下げ、5.50%に設定すると指数は上昇に転じた。同日は場中の上落分を補えず、終値は前日を小幅に下回ったものの、23 日は買い優勢の展開となり、4 日ぶりに反発して引けている。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因が指数を左右する展開か。

▼指数チャート

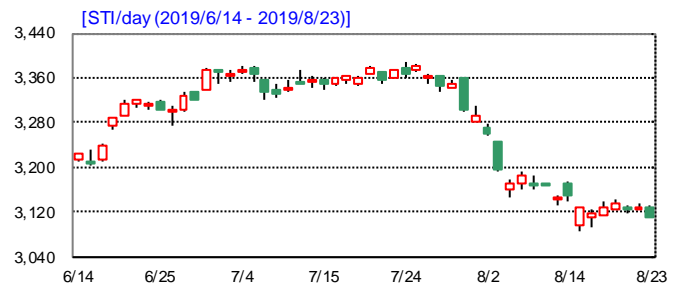


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.2%安、今週は 7 月の鉱工業生産が焦点

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.2%安と 5 週連続落。週末の反落が響いた。週初の 19 日は、中国ファーウェイに対する米国の禁輸措置の一部猶予期間が延長された効果などで 3 営業日ぶりに反発。20 日は世界的な景気対策の広がりが好感されて続伸したが、21 日は米 FOMC 議事要旨の公表を目前に控えた様子見で反落した。22 日は翌日の 7 月の CPI 発表を前にコアインフレの低い伸びが続けば金融緩和の可能性が高まるとの期待感から反発した一方、23 日は物価上昇の鈍化を受けた景気減速への懸念が売り材料となり、反落して引けている。今週は 26 日発表の 7 月の鉱工業生産に対する市場の反応が焦点。

▼指数チャート

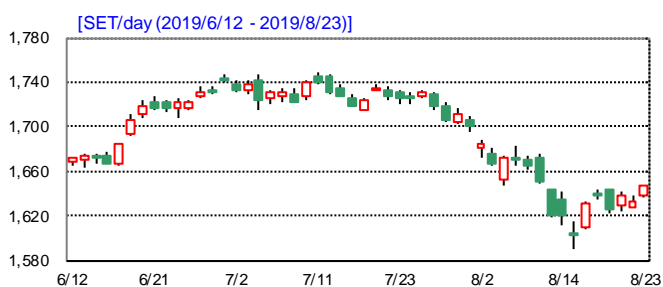


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.9%高、金相場高騰で 7 月の輸出（通関ベース）が増加

SET 指数は週間で 0.9%高と 5 週ぶりに反発。一進一退を繰り返しながら、徐々に上値を広げた。週初の 19 日は、4-6 月期の GDP が前年同期比 2.3%増と 5 年ぶりの低成長だったものの、前週末に発表された 100 億米ドル規模の景気刺激策に対する期待感から買われ、指数は続伸。20 日は財務省が今年の経済成長率の見通しを 4 月時点の 3.8%から 3.0%に下方修正した影響で反落したが、21 日は 7 月の輸出（通関ベース）が金相場の高騰を受けて、前年同月比 4.3%増と 5 カ月ぶりにプラスに転じた効果で反発した。今週は 27 日に 7 月の鉱工業生産が発表される予定で、3 カ月ぶりに前年同月の水準を上回れば好材料。

▼指数チャート

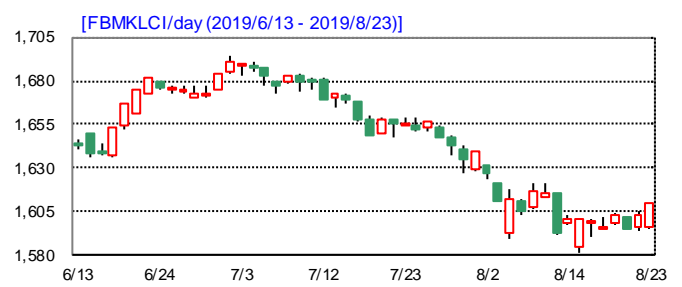


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.6%高、好決算の AMMB ホールディングスが上昇

クアラルンプール総合指数は週間で 0.6%高と 7 週ぶりに反発。前週に続き節目の 1600 ポイントを挟んでもみ合う中、週後半の上昇が奏功した。19 日は 3 営業日連続してスタートしたが、20 日は米中関係の緊張がやや和らぎ、前日の NY ダウが大幅上昇した流れで反発。21 日は引け際に売りが集中して反落した一方、22 日は 4-6 月期決算が好調だった AMMB ホールディングスが指数上昇をけん引すると、23 日も続伸して取引を終えている。今週も国内の重要イベントが少なく、先週末の講演で、パウエル FRB 議長が 9 月の利下げに関する明言を避けたことに対する市場の反応など、外部要因が焦点になりそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。